

株主・投資家の皆様へ

株主・投資家の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

弊社の近況におきましては、弊社株価の軟調や、2007年12月12日に発表した第三者割当の実施により弊社社長の橋本康弘が筆頭株主から第2位に異動となったことなどを受けて、株主・投資家の皆様より多数のご不安やご心配の声を頂いている状況です。

つきましては、最近の弊社を取り巻く環境及び、経営陣の弊社における事業の将来性、経営に対する認識について以下の通り申し上げます。

当期の財務状況について

12月12日にプレスリリースで発表いたしましたように、当社は第三者割当による新株発行により約5億5千万円を調達いたしました。そのうちの約4億円は第2回および第3回無担保転換社債型新株予約権付社債の償還にあてられ、残りの約1億5千万円は今後の遺伝子を用いた診断に関する新規事業運営資金を中心にあてる予定です。この結果、現状の見込みにおいては、次年度における当社グループの通常の運営ならびに成長に必要な資金の手当ては十分にでき、財務的な安定度は高まったと認識しております。

新たに筆頭株主となる、新株式の割当先「Generation Japan Master Fund (Cayman) LP」について

12月12日にプレスリリースにて発表いたしました、第三者割当による新株式発行に伴う払い込みが、予定日である12月27日に完了した場合、新たに「Generation Japan Master Fund (Cayman) LP」が筆頭株主となり、同時にこれまで筆頭株主であった弊社代表取締役の橋本康弘は第2位となります。

新たに主要株主及び筆頭株主の割当先となる「Generation Japan Master Fund (Cayman) LP」は、事業上、緊密なパートナーシップを構築出来る相手先です。

割当先は、日本のみならず、中国、韓国、米国などのバイオ業界に、強い人的ネットワークを有しており、当社の事業モデルに対しても深い理解を有しています。また、今後当社と協業を望め得る優良企業への投資をすでに活発に行っていることから、当社の業容拡大にも貢献できる可能性も有しています。さらには、今後社外取締役の派遣など、当社のコーポレート・ガバナンスの向上にも資する相手先としても当社は考えております。このように、弊社は、今回の新たな筆頭株主の出現は、弊社の展開する事業において大変なプラスの作用が望めるとともに、弊社が目指す「テーラード創薬（副作用の少ない個人に適した創薬）」の実現に向けて、更なる一步を踏み出せる施策となると考えております。

当社の使命と存在価値

経営陣は現在、お約束した業績を着実に達成することにより株主価値を上げることができると考えておりますが、長期間に亘る株価の軟調で株主の方々に大変ご迷惑をおかけしていると強く認識しております。

健康で長生きしたい、というのは、全ての人に共通の願いです。病気になってもいち早く健康に戻りたいという願望と、病気にならず健康でいたいという願望があると思います。それを適えてくれるのが、これからの時代に台頭してくる「個の医療」であり、「予防医療」です。医療とバイオテクノロジーの進展は、体質に合ったより効果の高い医療や、治療中心から予防中心の医療の世界への理想を実現に導いてくれます。

弊社の使命は、これら「個の医療」や「予防医療」の理想を現実に変えることにあります。つまり、個人の体質を科学的に導き出し、薬効が高く副作用の少ない「テーラーメイド創薬」を、一刻も早く創り上げることにあります。そして弊社の強みは、そういった理想を現実に変えられる、今までに築き上げてきた技術やノウハウを持っていることといえます。

「個の医療」や「予防医療」を実現させるためには、多くの人々からのご支援とご協力が必要です。より多くの人々が個の医療を利用できるようにするためには、弊社の取り組みを多くの人々に支援していただく必要があります。個の医療や予防医療推進のための弊社の役割は、その先鞭役として、創薬支援や創薬や投資・投資育成などを通して、「テーラーメイド創薬」という業界全体を大きく成長させ、その世界へ導いていくことにあります。

弊社を支えて下さる全ての皆様へ

株主・投資家を始め、弊社を支えて下さっている皆様には、弊社が、いかに大きく未知なる世界の中で、社会全体と足並みを揃えながら進めていく難しい環境下で、経営を推し進めているか、ということをお少しでもご理解頂ければと思います。また、それゆえに、いつになれば黒字化に出来るのかという問いに対しても、これまで存在しなかった業界ゆえ、長期展望においては、現時点では明確な数字を想定して示すことができないという環境にあることも、何卒ご理解頂ければと思います。

そして、将来的には、業績拡大による収益の分配と、個の医療や予防医療の実現という、株主や投資家の皆様から託された2つの夢の実現を図るべく、弊社が現在置かれている経営環境とこれからの事業展開について充分にご説明を続けながら、今後とも全力で事業に邁進してまいります。

今後の見通しにつきましては、短期的には引き続き厳しい経営環境が続くものと思われませんが、積極的な事業運営を徹底することで、早期黒字化体質への転換を実現して参る所存でございます。また、弊社代表取締役であり、今回の第三者割当の実施により筆頭株主から第2位に主要株主順位が異動となる橋本康弘も、これまでと変わらない強い信念と情熱で、引き続きテーラーメイド創薬の実現を目指す決意を持ち続けています。弊社では現在、経営陣・従業員一丸となって、これまで以上に積極的な活動を続けております。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも倍旧のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2007年12月13日

株式会社メディックグループ
代表取締役社長 橋本康弘(易周)